

科目名		現代仏教特講（R）	
担当教員		長尾 重輝	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	<p>本科目は、現代社会の諸問題について、仏教思想を通して検討していくことを主な目的として開講します。最終的な目標として、受講者が自ら関心をもった仏教思想を通して、現代社会の諸問題を検討していく視座を獲得し、実践的な営みへとつなげていく方途を探求して欲しいと思いますので、主体的な学びの姿勢がなによりも求められます。社会への関心と経典・論書との間で思索を深めていくことを期待します。</p>	
	テキストの概要	<p>爪田一寿〔編〕『資料集（現代仏教特講）』（武蔵野大学大学院通信教育部、2012年）</p>	
授業計画		<p>4つのレポート（2つの課題に対してそれぞれ2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで4単位を修得します。</p> <p>第1章・第2章 正義／悪について考える（1）・（2） 第3章 仏・浄土について考える 第4章 浄土教諸師の「摂取不捨」解釈をめぐって</p>	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		仏教史特講	
担当教員		長尾 重輝	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	本科目では、2500年に及ぶ仏教の歴史を、インド、中国、日本、そして東南アジアの四地域に分けて概観することにより、仏教に対する総合的、大局的な見方を養うことを到達目標とします。	
	テキストの概要	高橋審也・石上和敬編（2012）『資料集（仏教史特講）』武蔵野大学大学院通信教育部。	
授業計画		4つのレポート（2つの課題に対してそれぞれ2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで4単位を修得します。 第1章 インド仏教の歴史 第2章 中国仏教の歴史 第3章 日本仏教の歴史 第4章 南伝仏教の歴史	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		仏教学特論（S）
担当教員		新作 慶明
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	<p>本科目の到達目標は、仏教学において基礎的とされる教義の概要を、実際の仏教文献（翻訳を含む）に基づいて理解し、考察することができるようになることです。</p> <p>具体的には、仏教の代表的な教義の概要を学んでいきます。原始仏典の苦・無常・無我や四諦説などの基礎的な教義、部派仏典の『俱舍論』などに見られるアビダルマ関連の諸知識と思考法、そして大乘の諸経典の思想や空や唯識などの学派形成に大きな影響を与えた思想等を学びます。また、仏教を社会的存在として捉えた場合、教義体系のみならず、教団を律してきた戒律も重要であることから、戒律文献にも学び射程を広げます。</p>
	テキストの概要	石上和敬編（2016）『資料集（仏教学特論）』武蔵野大学大学院通信教育部。
授業計画		<p>スクーリングは本学で毎週開催される90分の講義を30時限受講し、試験に合格することで4単位を修得します。</p> <p>第1章 原始仏典を学ぶ 第2章 アビダルマ文献を学ぶ 第3章 戒律文献を学ぶ 第4章 大乘仏典を学ぶ</p> <p>スクーリング</p> <p>第1回： イントロダクション 第2回： 原始仏典とは 第3回： 原始仏典の思想① 第4回： 原始仏典の思想② 第5回： 原始仏典の思想③ 第6回： 原始仏典の思想④ 第7回： アビダルマ文献とは 第8回： アビダルマ文献概説① 第9回： アビダルマ文献概説② 第10回： アビダルマ文献概説③ 第11回： アビダルマ文献概説④ 第12回： 戒律文献とは 第13回： 戒律文献を読む① 第14回： 戒律文献を読む② 第15回： 戒律文献を読む③ 第16回： 大乘経典とは 第17回： 大乘経典を読む① 第18回： 大乘経典を読む② 第19回： 大乘経典を読む③</p>

	第20回：大乘経典を読む④ 第21回：大乘論書とは 第22回：中観について① 第23回：中観について② 第24回：唯識について① 第25回：唯識について② 第26回：如来蔵思想① 第27回：如来蔵思想② 第28回：密教とは何か 第29回：まとめ 第30回：試験
成績評価の方法	単位認定試験
実践的教育を行う 授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)
	授業内容との関連性
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目
	学外講師の経歴・資格等
	授業内容
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目
	実習先・実習の目的
備考	

科目名		仏教学特論（R）	
担当教員		新作 慶明	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	<p>本科目の到達目標は、仏教学において基礎的とされる教義の概要を、実際の仏教文献（翻訳を含む）に基づいて理解し、考察することができるようになることです。</p> <p>具体的には、仏教の代表的な教義の概要を学んでいきます。原始仏典の苦・無常・無我や四諦説などの基礎的な教義、部派仏典の『俱舍論』などに見られるアビダルマ関連の諸知識と思考法、そして大乘の諸経典の思想や空や唯識などの学派形成に大きな影響を与えた思想等を学びます。また、仏教を社会的存在として捉えた場合、教義体系のみならず、教団を律してきた戒律も重要であることから、戒律文献にも学び射程を広げます。</p>	
	テキストの概要	石上和敬編（2016）『資料集（仏教学特論）』武蔵野大学大学院通信教育部。	
授業計画		<p>4つのレポート（2つの課題に対してそれぞれ2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで4単位を修得します。</p> <p>第1章 原始仏典を学ぶ 第2章 アビダルマ文献を学ぶ 第3章 戒律文献を学ぶ 第4章 大乘仏典を学ぶ</p>	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名	現代仏教特殊研究
担当教員	石上 和敬 松本 紹圭
授業方法	講義
科目の概要	<p>到達目標</p> <p><知識専門性の到達目標> 現代社会において仏教者（僧侶と在家信者）や寺院が果たしうる役割を考察する際、その前提となる知識を習得し、それを応用する能力を身につけることを到達目標とする。</p> <p><関心・態度・人格の到達目標> 現代社会が直面する諸課題に対して仏教者や寺院がその知見に基づいて貢献できる可能性を積極的に模索することができるようになることを到達目標とする。</p> <p><思考・判断の到達目標> 古典文献である仏典の思想を現代社会のテーマにどのように繋げ、活かしていくのか、という視点から思考できるようになることが到達目標である。</p> <p><実践的スキル・表現の到達目標> 古典文献の読解から得られる知見と、現代社会の諸課題を社会科学的な視点を加味しつつ分析することから得られる知見とを、関連づけながら考察し、その成果をわかりやすく表現できるようになることが到達目標である。</p>
	<p>テキストの概要</p> <p>本科目はスクーリングだけの開講であるため、資料集は配布しません。スクーリング時に資料を配布して講義を行います。</p> <p>また、通学制との合同授業（S）の場合、別途参考資料として、テキストを購入していただくこともあります。</p>
授業計画	<p>本科目は、スクーリングだけの学習方法で開講されます。</p> <p>スクーリングは、本学で開催される90分の講義を30時限受講し、試験に合格することで4単位を修得します。</p> <p>前半15回の授業のうち数回でゲスト講師の授業を検討していますが、現在調整中ですので、講義内容は変更することがあります。</p> <p>後半15回の授業は7人のゲスト講師が2コマ連続の授業を行います。ゲスト講師の担当日を調整中ですので、授業計画の16回～29回の順番は入れ替わることがあります。</p> <p>第1回： イントロダクション・受講者自己紹介・マイストーリー1（幼少期～出家まで）</p> <p>第2回： マイストーリー2（住み込み～留学まで）、出家とはなにか？を考えるミニワーク</p> <p>第3回： マイストーリー3（未来の住職塾）、お寺とはなにか？を考えるミニワーク</p> <p>第4回： 「Temple」ワーク</p> <p>第5回： 経営学から見たお寺づくり論①（寺業計画書、お寺の使命、環境分析、ビジョン・戦略、マーケティング、リーダーシップ 他）</p>

第6回： 経営学から見たお寺づくり論②（寺業計画書、お寺の使命、環境分析、ビジョン・戦略、マーケティング、リーダーシップ 他）

第7回： 経営学から見たお寺づくりワークショップ①：お寺のマーケティング企画を考える1（企画検討）

第8回： 経営学から見たお寺づくりワークショップ②：お寺のマーケティング企画を考える2（発表・討議）

第9回： お寺づくり実践事例研究1～お寺360度診断・寺業計画書を題材に（テーマ：永代供養墓、お寺葬 他）

第10回： お寺づくり実践事例研究2～お寺360度診断・寺業計画書を題材に（テーマ：イベント、広報 他）

第11回： 経営学から見たお寺づくりワークショップ③：寺業計画書を書いてみる1（企画検討）

第12回： 経営学から見たお寺づくりワークショップ④：寺業計画書を書いてみる2（発表・討議）

第13回： マイストーリー4（世界経済フォーラム（通称：ダボス会議 Young Global Leaders、ハーバード大学セミナー、ブータン、掃除他）

第14回： 現代における僧侶像・寺院像ワークショップ1

第15回： 現代における僧侶像・寺院像ワークショップ2

（注意点）以下の講師の順番は暫定的なものですので、詳細はWB Tでご確認ください。

第16～17回： 現代の葬送問題
 ゲスト講師：小谷みどり 元第一生命経済研究所主席研究員による講義

第18～19回： 世界の仏教事情
 ゲスト講師：大來尚順 超勝寺副住職による講義

第20～21回： ヨーロッパにおける仏教
 ゲスト講師：江田智昭（公益財団法人 仏教伝道協会 出版部）による講義

第22～23回： メディアから見た仏教者
 ゲスト講師：西出勇志 共同通信社編集委員兼論説委員による講義

第24～25回： 寺院の新たな挑戦
 ゲスト講師：井出悦郎 一般社団法人お寺の未来代表理事による講義

第26～27回： 仏教者の社会貢献
 ゲスト講師：藤丸智雄 浄土真宗本願寺派総合研究所副所長による講義

第28～29回： 宗教法人の社会的責任
 ゲスト講師：戸松義晴 浄土宗総合研究所主任研究員による講義

第30回： まとめ（石上和敬）

成績評価の方法	単位認定試験	
実践的教育を行う 授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	

	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		インド仏教特講（S）	
担当教員		日野 慧運	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	<p>本科目では、インド仏教の概要を把握するために必須と考えられる四つのテーマを選び、最新の研究成果に拠りながら、その要点を学習します。四つのテーマとはすなわち、釈尊の伝記にまつわる諸問題、原始・部派仏典の概要、大乘仏教の興起の問題、そして、大乘経典の研究手法です。これらの学習を通して、インドにおいて仏教が何を主張してきたのか、また、仏教がどのようなあり方で歴史のなかに存在してきたのかという、インド仏教の思想史と教団史との双方について、現在の学界でのおおよその動向を踏まえつつ、理解を深めることが本科目の到達目標です。</p>	
	テキストの概要	石上和敬編（2012）『資料集（インド仏教特講）』武蔵野大学大学院通信教育部。	
授業計画		<p>本学で毎週開講するスクーリング講義（1時限90分）を30時限受講し、期末試験に合格することで、4単位を修得します。</p> <p>〈スクーリングの概要〉</p> <p>スクーリングは通学制との合同授業となります。スクーリングでは、資料集とは別に、必要な資料を配布して講義を行います。なお、講義内容は予定であり、受講生が関心のあるテーマを可能な限り取り上げるようにします。</p> <p>〈スクーリングの講義予定〉</p> <p>第1回：イントロダクション 第2 - 4回：釈尊の生涯 第5 - 8回：初期・部派仏教の仏典 第9 -11回：大乘仏教の興起 第12 -15回：大乘経典の研究 第16 -22回：初期仏典を読む 第23 -28回：大乘経典を読む 第29 -30回：期末試験、フォローアップ</p>	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別		a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
		担当教員の实務経験 (経歴・資格等)	
		授業内容との関連性	
		b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
		学外講師の経歴・資格等	

	授業内容	
	c : 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		インド仏教特講（R）	
担当教員		日野 慧運	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	<p>本科目では、インド仏教の概要を把握するために必須と考えられる四つのテーマを選び、最新の研究成果に拠りながら、その要点を学習します。四つのテーマとはすなわち、釈尊の伝記にまつわる諸問題、原始・部派仏典の概要、大乘仏教の興起の問題、そして、大乘經典の研究方法です。これらの学習を通して、インドにおいて仏教が何を主張してきたのか、また、仏教がどのようなあり方で歴史のなかに存在してきたのかという、インド仏教の思想史と教団史との双方について、現在の学界でのおおよその動向を踏まえつつ、理解を深めることが本科目の到達目標です。</p>	
	テキストの概要	石上和敬編（2012）『資料集（インド仏教特講）』武蔵野大学大学院通信教育部。	
授業計画		<p>4つのレポート（2つの課題に対してそれぞれ2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで4単位を修得します。</p> <p>学習内容を深めるために、レポートは1つの課題に対して2回の提出を求めます。第1回は課題についてのレポートであり、第2回は第1回レポートに対する添削内容に従って書き直したレポート、あるいは、課題から発展して与えられた追加課題についてのレポートとします。したがって、第1回レポートの課題は全学生に共通ですが、第2回レポートの課題は学生によって異なります。</p> <p>レポートは、資料集にもとづいて各自執筆・提出します。</p> <p>第1課題では資料集第1章・第2章、第2課題では資料集第3章・第4章が出題範囲となります。</p>	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の实務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名	インド語仏教文献講読
担当教員	丸井 浩
授業方法	講義
科目の概要	<p>＜知識の専門性の到達目標＞</p> <p>インド仏教原典、特に初期仏典の読解には、パーリ語の知識が不可欠である。本授業ではパーリ語文法の基礎知識を習得し、かつ実際のパーリ語原典が解読できるための基礎力を養成することが目標である。</p> <p>＜関心・態度・人格の到達目標＞</p> <p>パーリ語文法を学ぶにあたって、サンスクリット語初等文法の知識を備えていることが望ましいが、その知識がない人でも、ゼロからパーリ語原典を読む力をつけることは可能である。ただしそのためには、地道に不断の努力をすること、そして自分が分かったか、まだ分からないかの区別を明確にして、分かるまで学ぼうとする謙虚さと忍耐力が求められる。知力よりも忍耐力、誠実さ、そしてポジティブ思考が重要である。逆に言えば、一年間、努力を続けることによって、初期仏典を原典で味わう第一歩を歩み出せるようになるばかりでなく、そうした忍耐力、誠実さなどが高まることが期待される。</p> <p>＜思考・判断の到達目標＞</p> <p>パーリ語文法は、サンスクリット文法と関係が深く、名詞の曲用と動詞の活用と不変化辞という三種の単語から文が構成されている、という基本構造は同じである。文法的な数に両数はなく単数と複数の 2 種類だけであるなど、概してサンスクリット文法よりは単純であるが、他方、文法的な形が一律的には定まらず、多様な形が許されるなど逆に難しい点もある。つまり、パーリ語の読解力を養成するには、パーリ語の文法的知識ばかりでなく、この文は何を言っているのだろうかを文脈などから判断する力が必須となる。本授業は初期仏典を原典で読む能力を養うということが、最も直接的な目標であるが、広い視野から言えば、総じて読書力の基本となる思考力・判断力・忍耐力などを高めることを目指している。</p> <p>＜実践的スキル・表現の到達目標＞</p> <p>パーリ語仏典にある初期仏教文献を原典で理解するための基礎的な読解スキルを身につけ、かつその原典の解読内容についての自分なりの理解が表現できる能力を習得する。</p>
	テキストの概要
授業計画	<p>本科目は、スクーリングだけの学習方法で開講されます。</p> <p>スクーリングは、本学で毎週開催される 90 分の講義を 30 時限受講し、試験に合格することで 4 単位を修得します。</p> <p>＜スクーリングの講義内容＞</p> <p>第 01 回 導入とパーリ語文法基礎入門（1）</p> <p>第 02 回 パーリ語文法基礎入門（2）</p> <p>第 03 回 パーリ語文法基礎入門（3）</p>

	<p>第04回 パーリ語文法基礎入門（4） 第05回 パーリ語文法基礎入門（5） 第06回 パーリ語文法基礎入門（6） 第07回 パーリ語文法基礎入門（7） 第08回 パーリ語文法基礎入門（8） 第09回 実践パーリ語読解基礎（1） 第10回 実践パーリ語読解基礎（2）：Sumsumāra-Jātaka① 第11回 実践パーリ語読解基礎（3）：Sumsumāra-Jātaka② 第12回 実践パーリ語読解基礎（4）：Sumsumāra-Jātaka③ 第13回 実践パーリ語読解基礎（5）：Sumsumāra-Jātaka④ 第14回 前期末試験（以上で前期終了） 第15回 実践パーリ語読解（1）：Vānarinda-Jātaka① 第16回 実践パーリ語読解（2）：Vānarinda-Jātaka② 第17回 実践パーリ語読解（3）：Vānarinda-Jātaka③ 第18回 実践パーリ語読解（4）：Sasa-Jātaka① 第19回 実践パーリ語読解（5）：Sasa-Jātaka② 第20回 実践パーリ語読解（6）：Sasa-Jātaka③ 第21回 実践パーリ語読解（7）：Sasa-Jātaka④： 第22回 実践パーリ語読解（8）：The Birth of Gotama Buddha① 第23回 実践パーリ語読解（9）：The Birth of Gotama Buddha② 第24回 実践パーリ語読解（10）：Paṭiccasamuppādo 第25回 実践パーリ語読解（11）：Dhammacakka-pavattana-sutta 第26回 実践パーリ語読解（12）：Buddha's Death① 第27回 実践パーリ語読解（13）：Buddha's Death② 第28回 実践パーリ語読解（14）Buddha's Death③ 第29回 学年末試験 第30回 予備日</p>	
成績評価の方法	単位認定試験	
実践的教育を行う 授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 （経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		

	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		中国仏教特講（S）	
担当教員		西本 照真	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	<p>インドからもたらされた仏教の思想が中国に本格的に根を下ろし、中国的な仏教思想として成立してくるのは隋唐代以降といえます。本講義では、中国への仏教の伝播と展開について概観しつつ、中国仏教の普遍的特質と各宗派の思想の独自性について学びます。①レポート（R）では、中国仏教史の展開を押さえた上で、隋唐の実践的仏教の一宗派である三階教の思想と活動に焦点を当てて学んでいきます。②スクーリング（S）は、隋唐代に広く読まれた仏教文献、あるいは隋唐代に成立した仏教文献の中から重要なものを取り上げて講読します。令和2年度は、隋代の天台宗の文献で中国天台の大成者智顛が講義したものを弟子の灌頂がまとめたとされる『摩訶止観』を講読していく予定です。『摩訶止観』は、天台において仏道修行の根幹にすえる止観の実践について説いたテキストで、天台宗の思想と実践を理解する上で不可欠なものです。今年度は、『摩訶止観』の後半、巻第五（の上）の「正修」止観の箇所、十境十乗観法について輪読していきます。天台止観の中でも中心の一つに位置づけられる一念三千の止観など、天台の実践の核心を学ぶこととなります。天台における止観の特質について理解を深めるとともに、中国仏教の止観の実践の展開の中でどのように位置づけられるか、明らかにしていくことができればと思います。</p>	
	テキストの概要	西本照真編『資料集（中国仏教特講）』武蔵野大学大学院通信教育部。	
授業計画		<p>スクーリングは本学で毎週開催される90分の講義を30時限受講し、試験に合格することで4単位を修得します。</p> <p>第1章 中国仏教史（1）（異宗教としての仏教の伝来と普及） 第2章 中国仏教史（2）（統一国家と仏教） 第3章 （特論1）三階教の思想と実践 第4章 （特論2）三階教研究の方法論的アプローチ <スクーリング> 第1回 中国仏教の研究方法について、『摩訶止観』に関する概説 第2回～第29回 文献講読 第30回 まとめ</p>	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別		a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
		担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
		授業内容との関連性	

	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		中国仏教特講（R）	
担当教員		西本 照真	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	<p>インドからもたらされた仏教の思想が中国に本格的に根を下ろし、中国的な仏教思想として成立してくるのは隋唐代以降といえます。本講義では、中国への仏教の伝播と展開について概観しつつ、中国仏教の普遍的特質と各宗派の思想の独自性について学びます。①レポート（R）では、中国仏教史の展開を押さえた上で、隋唐の実践的仏教の一宗派である三階教の思想と活動に焦点を当てて学んでいきます。②スクーリング（S）は、隋唐代に広く読まれた仏教文献、あるいは隋唐代に成立した仏教文献の中から重要なものを取り上げて講読します。令和2年度は、隋代の天台宗の文献で中国天台の大成者智顛が講義したものを弟子の灌頂がまとめたとされる『摩訶止観』を講読していく予定です。『摩訶止観』は、天台において仏道修行の根幹にすえる止観の実践について説いたテキストで、天台宗の思想と実践を理解する上で不可欠なものです。今年度は、『摩訶止観』の後半、巻第五（の上）の「正修」止観の箇所、十境十乗観法について輪読していきます。天台止観の中でも中心の一つに位置づけられる一念三千の止観など、天台の実践の核心を学ぶこととなります。天台における止観の特質について理解を深めるとともに、中国仏教の止観の実践の展開の中でどのように位置づけられるか、明らかにしていくことができればと思います。</p>	
	テキストの概要	西本照真編『資料集（中国仏教特講）』武蔵野大学大学院通信教育部。	
授業計画		<p>4つのレポート（2つの課題に対してそれぞれ2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで4単位を修得します。</p> <p>第1章 中国仏教史（1）（異宗教としての仏教の伝来と普及） 第2章 中国仏教史（2）（統一国家と仏教） 第3章 （特論1）三階教の思想と実践 第4章 （特論2）三階教研究の方法論的アプローチ</p>	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別		a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
		担当教員の实務経験（経歴・資格等）	
		授業内容との関連性	
		b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
		学外講師の経歴・資格等	
		授業内容	

	c : 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		近代仏教特講
担当教員		碧海 寿広
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	<p>近代日本における仏教の変遷と、代表的な仏教者たちの思想について学ぶことで、仏教近代化の帰結としての現代仏教の特質を理解する。特に、日本仏教が近代に直面したがゆえに生じた問題と、その克服のために生まれてきた思想の可能性について、多面的に捉えられる見識の獲得を目指す。</p> <p>ディプロマ・ポリシー「①仏教精神に則り学術の理論及び応用する能力を身につけていること」との関連性については、現代に生きる私たちにとって身近な近代の仏教について学習することで、仏教と現代世界とのかかわりを理論的・実践的に考える技術の習得が可能になる。</p>
	テキストの概要	碧海寿広編（2018）『資料集（近代仏教特講）』武蔵野大学大学院通信教育部
授業計画		<p>本学で開催される90分の講義（小テスト含む）を30時限受講することで4単位を修得します。</p> <p>第01回：近代仏教へのアプローチ 第02回：近代仏教のはじまり 第03回：近代仏教と社会 第04回：近代仏教と政治 第05回：近代仏教と戦争 第06回：井上円了と哲学 第07回：清沢満之と信仰 第08回：近角常観と伝統 第09回：メディアと仏教 第10回：現代思想と仏教 第11回：近代仏教学の形成 第12回：日本仏教史の構築 第13回：仏教系大学の誕生 第14回：高楠順次郎の学問 第15回：西田幾多郎の哲学 第16回：葬式仏教の変遷 第17回：巡礼と観光の近現代 第18回：五来重の仏教民俗学 第19回：美術としての古寺・仏像 第20回：近代の仏教と文学 第21回：明治仏教の国際化 第22回：海外布教の歴史 第23回：帝国主義と仏教</p>

	第24回：大谷光瑞と探検 第25回：鈴木大拙と禅（Zen） 第26回：寺院仏教をめぐる問題 第27回：妻帯仏教とジェンダー 第28回：現代宗教と仏教 第29回：瞑想ブームの背景 第30回：試験
成績評価の方法	単位認定試験
実践的教育を行う 授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)
	授業内容との関連性
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目
	学外講師の経歴・資格等
	授業内容
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目
	実習先・実習の目的
備考	

科目名		近代仏教特講（R）	
担当教員		碧海 寿広	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	<p>近代日本における仏教の変遷と、代表的な仏教者たちの思想について学ぶことで、仏教近代化の帰結としての現代仏教の特質を理解する。特に、日本仏教が近代に直面したがゆえに生じた問題と、その克服のために生まれてきた思想の可能性について、多面的に捉えられる見識の獲得を目指す。</p> <p>ディプロマ・ポリシー「①仏教精神に則り学術の理論及び応用する能力を身につけていること」との関連性については、現代に生きる私たちにとって身近な近代の仏教について学習することで、仏教と現代世界とのかかわりを理論的・実践的に考える技術の習得が可能になる。</p>	
	テキストの概要	碧海寿広編（2018）『資料集（近代仏教特講）』武蔵野大学大学院通信教育部	
授業計画		<p>4つのレポート（2つの課題に対してそれぞれ2つのレポート）をすべて提出し、単位認定申請レポートに合格することで4単位を修得します。</p> <p>①「近代の仏教は、社会とどのように関わってきたのかを論じなさい」（資料集第1章参照）</p> <p>②「近代仏教の思想について、その内容と現代的な意義を論じなさい」（資料集第2章参照）</p> <p>③「近代の学者が、日本仏教をどう評価してきたのかを論じなさい」（資料集第3章参照）</p> <p>④「近代の文化のなかで、仏教がいかに扱われてきたのかを論じなさい」（資料集第4章参照）</p> <p>⑤「近代の仏教者が、海外の人々とどう関わってきたのかを論じなさい」（資料集第5章参照）</p> <p>⑥「現代の仏教が直面している問題と、その解決策について論じなさい」（資料集第6章参照）</p>	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別		a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
		担当教員の实務経験（経歴・資格等）	
		授業内容との関連性	
		b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
		学外講師の経歴・資格等	

	授業内容	
	c : 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		東南アジア仏教特講
担当教員		山田 均
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	東南アジア・スリランカに行われている上座部仏教について、その教理、実践、社会との関係など総合的な知識を獲得し、振り返って日本の仏教についての理解を深める一助を得ること。
	テキストの概要	なし
授業計画		<p>本学で毎週行われる 90 分の講義を 30 回受講し、試験に合格することで 4 単位を取得します。</p> <p>(前期)</p> <p>第 1 回：イントロダクション 第 2 回：上座部仏教の歴史 (インド) 第 3 回：上座部仏教の歴史 (スリランカ) 第 4 回：上座部仏教の歴史 (ミャンマー) 第 5 回：上座部仏教の歴史 (タイ) 第 6 回：上座部仏教の歴史 (カンボジア、ラオス、雲南省) 第 7 回：まとめ</p> <p>第 8 回：上座部仏教の教団生活 第 9 回：上座部仏教の教団生活 第 10 回：上座部仏教の教団生活 第 11 回：上座部仏教の教団生活 第 12 回：上座部仏教の在家信者生活 第 13 回：上座部仏教の在家信者生活 第 14 回：上座部仏教の在家信者生活 第 15 回：まとめ</p> <p>(後期)</p> <p>第 16 回：上座部仏教と芸術 (仏塔) 第 17 回：上座部仏教と芸術 (絵画) 第 18 回：上座部仏教と芸術 (仏像) 第 19 回：上座部仏教と芸術 (文学・芝居) 第 20 回：まとめ</p> <p>第 21 回：上座部仏教と国家・教育 第 22 回：上座部仏教と国家・教育 第 23 回：上座部仏教と国家・教育 第 24 回：上座部仏教と国家・教育 第 25 回：まとめ</p> <p>第 26 回：上座部仏教と民間信仰 (祖霊信仰) 第 27 回：上座部仏教と民間信仰 (超能力僧)</p>

	第 28 回：上座部仏教と民間信仰（呪術） 第 29 回：上座部仏教と民間信仰（その他） 第 30 回：まとめ	
成績評価の方法	単位認定試験	
実践的教育を行う 授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の 実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との 関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の 経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の 目的	
備考		

科目名		外国語仏教文献講読	
担当教員		A. チャールズ・ミュラー	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	英語で仏教について話せるようになる為、英語の仏教書を読む。	
	テキストの概要	なし	
授業計画		スクーリングは、本学で毎週開催される90分の講義を30時限受講し、試験に合格することで4単位を修得します。 最初の授業で紹介するいくつかの仏教書の中から、学生の専門や興味などによって、一冊を選択します。その本を毎週の授業で、英語で読む。	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の实務経験 (経歴・資格等)		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		浄土教特講（S）
担当教員		石上 和敬
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	<p>本講義では、インドから東アジアに広く伝播した、阿弥陀仏を信仰対象とする浄土教の概要について、〈無量寿経〉、〈阿弥陀経〉、そして『観無量寿経』という三つの経典の所説に拠りながら確認していく。これら三経典を「浄土三部経」と総称されているが、この名称は法然の『選択本願念仏集』に始まり、親鸞によって受け継がれたものである。</p> <p>①レポート（R）では、上記の三経典を読解していくための基本思想として、阿弥陀仏と本願について理解する。その上で親鸞がこれら三経典をどのように受容しているのかを考察する。</p> <p>②スクーリング（S）では、上記の三経典の講読が講義の中心となる。（詳細は「スクーリングの講義内容」を参照のこと。</p>
	テキストの概要	なし
授業計画		<p>スクーリングは本学で毎週開催される原則90分の講義を30時限受講し、試験に合格することで4単位を修得します。</p> <p>スクーリングでは、資料集以外の資料を配布して、講義を行います。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2回 〈無量寿経〉文献資料の概要① 第3回 同② 第4回 〈阿弥陀経〉文献資料の概要 第5回 『観無量寿経』文献資料の概要 第6回 浄土教の基本思想① 阿弥陀仏 第7回 同② 本願 第8回 同③ 浄土 第9回 同④ 往生 第10回 同⑤ 念仏 第11回 〈無量寿経〉読解① 第12回 同② 第13回 同③ 第14回 同④ 第15回 同⑤ 第16回 同⑥ 第17回 同⑦ 第18回 同⑧ 第19回 同⑨ 第20回 同⑩ 第21回 同⑪</p>

	第22回 同⑫ 第23回 同⑬ 第24回 同⑭ 第25回 <阿弥陀経>読解① 第26回 同② 第27回 同③ 第28回 『観無量寿経』読解① 第29回 同② 第30回 同③
成績評価の方法	単位認定試験
実践的教育を行う 授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)
	授業内容との関連性
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目
	学外講師の経歴・資格等
	授業内容
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目
	実習先・実習の目的
備考	

科目名		浄土教特講（R）	
担当教員		石上 和敬 前田 壽雄	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	<p>本講義では、インドから東アジアに広く伝播した、阿弥陀仏を信仰対象とする浄土教の概要について、〈無量寿経〉、〈阿弥陀経〉、そして『観無量寿経』という三つの経典の所説に拠りながら確認していく。これら三経典を「浄土三部経」と総称されているが、この名称は法然の『選択本願念仏集』に始まり、親鸞によって受け継がれたものである。</p> <p>①レポート（R）では、上記の三経典を読解していくための基本思想として、阿弥陀仏と本願について理解する。その上で親鸞がこれら三経典をどのように受容しているのかを考察する。</p> <p>②スクーリング（S）では、上記の三経典の講読が講義の中心となる。（詳細は「スクーリングの講義内容」を参照のこと。</p>	
	テキストの概要	前田壽雄編『資料集（浄土教特講）』武蔵野大学大学院通信教育部。	
授業計画		<p>4つのレポート（2つの課題に対してそれぞれ2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出、合格することで4単位を修得します。</p> <p>資料1 藤田宏達「浄土三部経の思想と解釈」（『浄土三部経の研究』、岩波書店、2007年）</p> <p>資料2 村上速水「三部経の教え」（『親鸞教義とその背景』、永田文昌堂、1987年）</p> <p>資料3 浅井成海「教文類」解説（『教行信証』の研究 第一巻 『『顕浄土真実教行証文類』解説論集』、浄土真宗本願寺派総合研究所監修、2012年）</p> <p>資料4 前田壽雄「親鸞における法蔵菩薩の修行とその現代的意義」（『慈光法喜 武田龍精先生喜寿記念』法喜会編、2017年）</p>	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別		a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
		担当教員の实務経験（経歴・資格等）	
		授業内容との関連性	
		b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
		学外講師の経歴・資格等	
		授業内容	
		c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	

	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		東南アジア仏教特講（R）	
担当教員		山田 均	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	東南アジア・スリランカに行われている上座部仏教について、その教理、実践、社会との関係など総合的な知識を獲得し、振り返って日本の仏教についての理解を深める一助を得ること。	
	テキストの概要	なし	
授業計画		4つのレポート（2つの課題に対してそれぞれ2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで4単位を修得します。 ①上座部仏教の僧と在家の関係について ②上座部仏教の信仰の内容について ③上座部仏教は日本で布教できるか	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名	真宗概論（S）
担当教員	前田 壽雄
授業方法	講義
科目の概要	<p>親鸞が開顕した浄土真宗を研究対象とする学問を「真宗学」という。親鸞が顕した「浄土真宗」とは、宗派や教団を意味するのではなく、往生浄土を説く真実の教である。すなわち、真実の教である『大無量寿経』に説かれた阿弥陀仏の選択本願を指し、具体的には他力の念仏成仏の教えをいう。その教えは、親鸞の主著である『顕浄土真実教行証文類』（『教行信証』、『教行証文類』）に組織体系化されている。</p> <p>『教行信証』とは、浄土三部経（『無量寿経』『観無量寿経』『阿弥陀経』）や七高僧（龍樹・天親・曇鸞・道綽・善導・源信・源空）の著述を中心として、さまざまな浄土往生に関する経論釈の要文を集めた文類の形式を採用したうえに、親鸞が自釈を施した畢生の大著である。そこには親鸞自身の深遠な思索とそれを裏づけた宗教体験が結実されている。</p> <p>本科目では、親鸞浄土教における重要な用語を手がかりとして、『教行信証』をはじめ、親鸞の他の漢語・和語聖教を読解することで、浄土真宗とは如何なる仏教であるのかを理解していく。そのうえで真宗教義の根拠を明確に押さえつつ、自分なりに咀嚼して、わかりやすく解説できる能力を修得することを目標とする。</p>
	テキストの概要
授業計画	<p>スクーリングは本学で毎週開催される原則90分の講義を30時限受講し、試験に合格することで4単位を修得します。</p> <p>資料1 桐溪順忍『親鸞はなにを説いたか』（教育新潮社、1964年）第四章 親鸞の仏教観—教相判釈—</p> <p>資料2 浅井成海『法然とその門弟の教義研究—法然の基本教義の継承と展開—』（永田文昌堂、2004年）第二章 法然とその門弟の本願論 第四節 親鸞の本願論</p> <p>資料3 梯 實圓『教行信証の宗教構造—真宗教義体系—』（法藏館、2001年）第四章 真実の行</p> <p>資料4 梯 實圓『教行信証の宗教構造—真宗教義体系—』（法藏館、2001年）第六章 真実の信</p> <p>資料5 前田壽雄「親鸞における智慧」（ケネス田中編、『智慧の潮—親鸞の智慧・主体性・社会性 Shinshu Theology から見えてくる新しい水平線』、武蔵野大学出版会、2017年）</p> <p>資料6 浅井成海『法然とその門弟の教義研究—法然の基本教義の継承と展開—』（永田文昌堂、2004年）第三章 法然とその門弟の菩提心論 第四節 親鸞の菩提心論</p> <p>資料7 前田壽雄「親鸞における正定聚論」（『人間学研究論集』第2号、武蔵野大学通信教育部、2012年）</p> <p>資料8 前田壽雄「親鸞聖人における来迎の問題」（『宗学院論集』第78号、浄土真宗本願寺派宗学院、2002年）</p> <p>スクーリングの講義内容（講義内容は変更されることがあります。）</p>

スクーリングでは、資料集の他に資料を配布して、講義を行うことがあります。

- 第01回 浄土真宗
- 第02回 『教行信証』の概要①
- 第03回 『教行信証』の概要②
- 第04回 <無量寿経>と親鸞①
- 第05回 <無量寿経>と親鸞②
- 第06回 龍樹と親鸞
- 第07回 天親と親鸞
- 第08回 曇鸞と親鸞①
- 第09回 曇鸞と親鸞②
- 第10回 道綽と親鸞
- 第11回 善導と親鸞①
- 第12回 善導と親鸞②
- 第13回 源信と親鸞
- 第14回 源空と親鸞
- 第15回 まとめ、試験
- 第16回 「信巻」の構成
- 第17回 「別序」
- 第18回 「信巻」標挙と嘆徳出願
- 第19回 大無量寿経引文
- 第20回 二不知三不信
- 第21回 至誠心積
- 第22回 深心積
- 第23回 回向発願心積
- 第24回 二河白道
- 第25回 字訓積
- 第26回 至心積
- 第27回 信楽積
- 第28回 欲生積
- 第29回 菩提心積
- 第30回 まとめ、試験

成績評価の方法	単位認定試験	
実践的教育を行う 授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	○
	担当教員の实務経験 (経歴・資格等)	(前田 壽雄先生 職歴) 築地本願寺新報編集委員 浄土真宗本願寺派総合研究所上級研究員
	授業内容との関連性	浄土真宗本願寺派の研究所にて活動していた教員が、仏教学の 専門知識を真宗学の観点を中心として、解説する。
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	

	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名	真宗概論（R）
担当教員	前田 壽雄
授業方法	講義
科目の概要	<p>親鸞が開頭した浄土真宗を研究対象とする学問を「真宗学」という。親鸞が顕した「浄土真宗」とは、宗派や教団を意味するのではなく、往生浄土を説く真実の教である。すなわち、真実の教である『大無量寿経』に説かれた阿弥陀仏の選択本願を指し、具体的には他力の念仏成仏の教えをいう。その教えは、親鸞の主著である『顕浄土真実教行証文類』（『教行信証』、『教行証文類』）に組織体系化されている。</p> <p>『教行信証』とは、浄土三部経（『無量寿経』『観無量寿経』『阿弥陀経』）や七高僧（龍樹・天親・曇鸞・道綽・善導・源信・源空）の著述を中心として、さまざまな浄土往生に関する経論釈の要文を集めた文類の形式を採用したうえに、親鸞が自釈を施した畢生の大著である。そこには親鸞自身の深遠な思索とそれを裏づけた宗教体験が結実されている。</p> <p>本科目では、親鸞浄土教における重要な用語を手がかりとして、『教行信証』をはじめ、親鸞の他の漢語・和語聖教を読解することで、浄土真宗とは如何なる仏教であるのかを理解していく。そのうえで真宗教義の根拠を明確に押さえつつ、自分なりに咀嚼して、わかりやすく解説できる能力を修得することを目標とする。</p>
	テキストの概要
授業計画	<p>4つのレポート（2つの課題に対してそれぞれ2つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出、合格することで4単位を修得します。</p> <p>資料1 桐溪順忍『親鸞はなにを説いたか』（教育新潮社、1964年）第四章 親鸞の仏教観—教相判釈—</p> <p>資料2 浅井成海『法然とその門弟の教義研究—法然の基本教義の継承と展開—』（永田文昌堂、2004年）第二章 法然とその門弟の本願論 第四節 親鸞の本願論</p> <p>資料3 梯 實圓『教行信証の宗教構造—真宗教義体系—』（法藏館、2001年）第四章 真実の行</p> <p>資料4 梯 實圓『教行信証の宗教構造—真宗教義体系—』（法藏館、2001年）第六章 真実の信</p> <p>資料5 前田壽雄「親鸞における智慧」（ケネス田中編、『智慧の潮—親鸞の智慧・主体性・社会性 Shinshu Theology から見えてくる新しい水平線』、武蔵野大学出版会、2017年）</p> <p>資料6 浅井成海『法然とその門弟の教義研究—法然の基本教義の継承と展開—』（永田文昌堂、2004年）第三章 法然とその門弟の菩提心論 第四節 親鸞の菩提心論</p> <p>資料7 前田壽雄「親鸞における正定聚論」（『人間学研究論集』第2号、武蔵野大学通信教育部、2012年）</p> <p>資料8 前田壽雄「親鸞聖人における来迎の問題」（『宗学院論集』第78号、浄土真宗本願寺派宗学院、2002年）</p>

成績評価の方法	単位認定試験	
実践的教育を行う 授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	○
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	(前田 壽雄先生 職歴) 築地本願寺新報編集委員 浄土真宗本願寺派総合研究所上級研究員
	授業内容との関連性	浄土真宗本願寺派の研究所にて活動していた教員が、仏教学の 専門知識を真宗学の観点を中心として、解説する。
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		真宗学特講
担当教員		梯 信暁
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	真宗教理学の立場から、日本における阿弥陀仏信仰の展開と親鸞教学の特徴に関する知識、ならびに漢文資料の解読に必要な能力を身につけます。
	テキストの概要	なし
授業計画		<p>本科目は、スクーリングの学習方法で開講されます。スクーリングは、本学で秋季に開催される集中講義（90分の講義を30時限）を受講し、試験に合格することで4単位を修得します。</p> <p><スクーリング></p> <p>第1回 日本の浄土教概観 第2回 浄土教の伝来と流布 第3回 奈良時代の阿弥陀仏信仰 第4回 平安初中期の阿弥陀仏信仰 第5回 臨終来迎信仰の形成 第6回 臨終来迎信仰の教理（資料講読） 第7回 叡山浄土教の興起 第8回 叡山浄土教の典籍 第9回 『往生要集』の大綱 第10回 『往生要集』の教理（資料講読） 第11回 院政期の阿弥陀仏信仰（資料講読） 第12回 院政期の浄土教典籍 第13回 法然教学の特徴 第14回 『選択本願念仏集』の教理（資料講読） 第15回 法然門下の教学 第16回 弁長と鎮西義（資料講読） 第17回 証空と西山義（資料講読） 第18回 親鸞教学の特徴 第19回 『教行証文類』の大綱（資料講読） 第20回 『教行証文類』の教理（資料講読） 第21回 『教行証文類』の教理（資料講読） 第22回 『教行証文類』の教理（資料講読） 第23回 『教行証文類』の教理（資料講読） 第24回 『教行証文類』の教理（資料講読） 第25回 『教行証文類』の教理（資料講読） 第26回 『教行証文類』の教理（資料講読） 第27回 『教行証文類』の教理（資料講読） 第28回 『歎異抄』の教理（資料講読）</p>

	第 29 回 『歎異抄』の教理（資料講読） 第 30 回 真宗教理学総まとめ	
成績評価の方法	単位認定試験	
実践的教育を行う 授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		真宗史（S）（院）
担当教員		岡村 喜史
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	<p>① 真宗史に関する専門的知識を修得する。</p> <p>② 講義内容を踏まえて、自身で独自の課題や疑問点を導き出し、それに取り組むようにする。</p>
	テキストの概要	岡村喜史編（2018）『資料集（真宗史）』武蔵野大学通信教育部
授業計画		<p>スクーリングは本学で開催される集中講義（90分の講義を計30時限）を受講し、試験に合格することで4単位を修得します。</p> <p>第1章 親鸞の生涯を学ぶ</p> <p>第2章 本願寺の成立</p> <p>第3章 蓮如と本願寺教団</p> <p>第4章 戦国期以降の本願寺教団</p> <p>スクーリング</p> <p>第1回：オリエンテーション 講義の概要と進め方</p> <p>第2回：親鸞伝の基礎 史料と研究</p> <p>第3回：平安時代の仏教 既成教団の概要</p> <p>第4回：親鸞誕生の背景 時代性を捉える</p> <p>第5回：親鸞の出自 親鸞誕生史料の分析</p> <p>第6回：親鸞の系譜 親鸞の家系</p> <p>第7回：親鸞の出家 出家の状況</p> <p>第8回：天台僧としての親鸞 比叡山での親鸞</p> <p>第9回：専修念仏への帰入 法然に弟子入りする</p> <p>第10回：法然門下の親鸞 専修念仏を修する</p> <p>第11回：流罪 越後へ流罪</p>

- 第 12 回：結婚
僧侶の結婚とは
- 第 13 回：関東へ移住
関東での親鸞の活動
- 第 14 回：帰洛
帰洛後の親鸞
- 第 15 回：描かれた親鸞像
親鸞像の分析
- 第 16 回：親鸞廟堂
親鸞の廟所とその整備
- 第 17 回：留主職
廟堂留主職の成立と覚信尼
- 第 18 回：唯善事件
留主職の継承問題
- 第 19 回：覚如
覚如の系譜
- 第 20 回：廟堂の寺院化
廟堂から「本願寺」へ
- 第 21 回：蓮如の誕生
覚如以降の本願寺と蓮如の誕生
- 第 22 回：蓮如の生い立ち
本願寺継職前の蓮如
- 第 23 回：蓮如の活動①
寛正の法難とその背景
- 第 24 回：蓮如の活動②
吉崎御坊と一向一揆
- 第 25 回：晩年の蓮如
山科本願寺の再興と大坂坊
- 第 26 回：大坂本願寺
大坂本願寺の実情と寺内町
- 第 27 回：「石山合戦」
織田信長と戦国大名
- 第 28 回：豊臣秀吉と本願寺
本願寺の移転と豊臣秀吉
- 第 29 回：本願寺の東西分派
徳川家康と教如
- 第 30 回：試験

成績評価の方法

単位認定試験

a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目

実践的教育を行う 授業科目の種別	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)	
	授業内容との関連性	
	b: 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c: 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		真宗史（R）（院）	
担当教員		岡村 喜史	
授業方法		講義	
科目の概要	到達目標	① 真宗史に関する専門的知識を修得する。 ② 講義内容を踏まえて、自身で独自の課題や疑問点を導き出し、それに取り組むようにする。	
	テキストの概要	岡村喜史編（2018）『資料集（真宗史）』武蔵野大学通信教育部	
授業計画		4つのレポート（2つの課題に対してそれぞれ2つのレポート）を提出し、すべてに合格して単位認定申請のレポートを提出することで4単位を修得します。 第1章 親鸞の生涯を学ぶ 第2章 本願寺の成立 第3章 蓮如と本願寺教団 第4章 戦国期以降の本願寺教団	
成績評価の方法		単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名	特定課題研究演習（人間__仏教）
担当教員	石上 和敬 西本 照真 新作 慶明
授業方法	講義
科目の概要	<p>「特定課題研究演習」は、指定された課題に基づいて特定課題研究論文を執筆する科目です。</p> <p>必修科目なので、この科目の単位を取得しなければ、大学院を修了することはできません。</p> <p>一般的に大学院では修士論文の執筆が必修になっていますが、本学の人間社会研究科では、修士論文に相当するものが特定課題研究論文になります。</p> <p>「人間社会研究科」という研究科名が示しているように、研究対象は人間です。人間を研究する場合、さまざまな学問分野（哲学、宗教学、心理学、生物学、社会学、経済学など）からのアプローチが可能です。しかし、近代以降、それぞれの学問分野からの個別のアプローチでは人間を理解することはできないという反省から、学問分野を横断し、総合的に人間にアプローチする「人間学」の必要性が求められます。最近では「総合人間学」という言い方もされています。</p> <p>人間社会研究科 人間学専攻も、このようなアプローチによって人間を研究することを目的にしています。しかし、人間学が総合的に人間にアプローチするものであっても、「人間学」あるいは「人間論」というタイトルがついた書籍や論文を読めば分かるように、そのテーマは多岐にわたり、方向性や問題意識も異なります。</p> <p>従って、本学の人間社会研究科では、方向性や問題意識を明確にするために、修士論文ではなく、指定した課題に基づく特定課題研究論文にしました。</p> <p>研究には独創性が求められることがあります。しかし、研究において最も重要なのは 独創的な 結論そのものではなく、</p> <p>どのような方法と手続きによってその結論を導き出したのかという研究方法になります。</p> <p>どんなに独創的な結論であっても、いい加減な研究方法によって導かれたものであるなら、それは研究による結果ではなく、ただの思いつきにしか過ぎません。</p> <p>以上の点から、特定課題研究論文では、あえて独創的な結論は求めずに、確実な研究方法を求めます。</p> <p>「特定課題研究演習」という科目の目的は、研究とはどのようなものであり、どのような方法で進めるのかという、研究能力を身に付けることです。</p> <p>研究能力を身に付けることができれば、大学院修了後、関心のあるテーマを各自で研究することができます。</p>
	到達目標
テキストの概要	なし
授業計画	<p>授業計画に記載の内容を行い、合格することで4単位を修得します。</p> <p>(2019年)</p> <p>11月30日まで 「研究計画書」提出</p> <p>12月中旬 指導教員通知または再提出通知</p>

	<p>12月25日 正午まで 「指導教員確認」または「指導教員変更願」提出（*指導教員を通知された者のみ） （2020年）</p> <p>1月5日 正午まで 「研究計画書」再提出（*該当者のみ）</p> <p>1月中旬 指導教員通知（*「研究計画書」再提出者のみ）</p> <p>1月19日 正午まで 「指導教員確認」または「指導教員変更願」提出（*「研究計画書」再提出者のみ）</p> <p>2月11日まで 指導教員決定通知（「指導教員変更願」の結果通知を含む）</p> <p>2月中旬 履修登録</p> <p>3月～5月 第1回面接指導（*第2回目以降の面接指導は、指導教員と履修生が相談して回数と時期を決定します。）</p> <p>8月10日まで 「研究経過確認申請・中間発表」提出</p> <p>9月下旬か10月上旬 中間発表（希望者のみ）</p> <p>12月10日まで 「清書論文提出許可願」提出 （2021年）</p> <p>1月10日まで 「清書論文」提出 「清書論文提出届」提出</p> <p>1月下旬か2月上旬 公聴会・口述試問</p> <p>2月上旬 成績通知</p> <p>8月10日まで 「清書論文」提出（*半年繰り上げ希望者のみ） 「清書論文提出届」提出（*半年繰り上げ希望者のみ）</p> <p>8月下旬か9月上旬 公聴会・口述試問（*半年繰り上げ希望者のみ）</p> <p>9月中旬 成績通知（*半年繰り上げ希望者のみ）</p>	
成績評価の方法	単位認定試験	
実践的教育を行う 授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験 （経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
実習先・実習の目的		
備考		

科目名	特定課題研究演習（仏教_仏教）
担当教員	石上 和敬 長尾 重輝 新作 慶明 碧海 寿広 前田 壽雄
授業方法	講義
科目の概要	<p>「特定課題研究演習」は、指定された課題に基づいて特定課題研究論文を執筆する科目です。</p> <p>必修科目なので、この科目の単位を取得しなければ、大学院を修了することはできません。</p> <p>一般的に大学院では修士論文の執筆が必修になっていますが、本学の仏教学研究科仏教学専攻では、修士論文に相当するものが特定課題研究論文になります。</p> <p>「仏教学」はその研究対象とする時代、地域、そして研究領域（たとえば思想・文化的側面、歴史的側面、儀礼的側面、社会的側面等々）、及び、研究者の問題意識も多岐にわたるため、本研究科では、研究の方向性や問題意識を明確にするためにも、修士論文ではなく、指定した課題に基づく特定課題研究論文にしています。</p> <p>次に、特定課題研究演習を履修するための基本的な留意点について触れておきます。</p> <p>研究においては独創性というものが強く意識されることがあります。しかし、研究において最も重要なのは独創的な結論そのものではなく、どのような方法と手続きによってその結論を導き出したのかという研究方法になります。</p> <p>どんなに独創的な結論であっても、杜撰な研究方法によって導き出されたものであるなら、それは研究による成果ではなく、ただの思いつきに過ぎないと批判されることもあるでしょう。</p> <p>以上の点から、特定課題研究論文では、あえて独創的な結論は求めずに、確実な研究方法を求めます。</p> <p>「特定課題研究演習」という科目の目的は、研究とはどのようなものであり、どのような方法で進めるのかという、研究遂行能力を身に付けることです。</p> <p>研究 遂行 能力を身に付けることができれば、大学院修了後、関心のあるテーマを各自で研究することができます。</p>
	テキストの概要
授業計画	<p>授業計画に記載の内容を行い、合格することで4単位を修得します。</p> <p>(2019年)</p> <p>11月30日まで 「研究計画書」提出</p> <p>12月中旬 指導教員通知または再提出通知</p> <p>12月25日 12:00 正午まで 「指導教員確認」または「指導教員変更願」提出 （*指導教員を通知された者のみ）</p> <p>(2020年)</p> <p>1月5日 12:00 正午まで 「研究計画書」再提出（*該当者のみ）</p> <p>1月中旬 指導教員通知（*「研究計画書」再提出者のみ）</p> <p>1月19日 12:00 正午まで「指導教員確認」または「指導教員変更願」提出（*「研究計画書」再提出者のみ）</p>

	2月11日まで 指導教員決定通知（「指導教員変更願」の結果通知を含む） 2月中旬 履修登録 4月～5月 第1回面接指導 7月～8月 第2回面接指導 8月10日まで 「研究経過確認申請」提出 10月～11月 第3回面接指導 12月10日まで 「清書論文提出許可願」提出 12月～1月 第4回面接指導 (2021年) 1月10日まで 「清書論文」提出 「清書論文提出届」提出 1月下旬か2月上旬 公聴会・口述試問 2月上旬 成績通知 ＊第2回目以降の面接指導は、指導教員と履修生が相談して回数と時期を決定します。
成績評価の方法	単位認定試験
実践的教育を行う 授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目
	担当教員の実務経験 (経歴・資格等)
	授業内容との関連性
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目
	学外講師の経歴・資格等
	授業内容
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、 研修を行う授業科目
	実習先・実習の目的
備考	